

大学等の復興知を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業（一般枠）
「事業名：日本版ハンフォードモデル構築による福島復興創生」
2020年度の活動方針

1 「連携推進連絡会」の設置

連携市町村(いわき市及び双葉地方町村会(双葉郡8町村: 広野町、楢葉町、川内村、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村))とは、これまで「準備会(ハンフォード等から学ぶ福島浜通りの復興)」を設置し協議を行ってきたが、この「準備会」を格上げし、「連携推進連絡会」を立ち上げた。(2020年6月)

2 米国ハンフォード地域との連携協力

新型コロナウイルス感染症による影響を踏まえ、当初予定していた活動を変更し、以下の内容を実施する。

(1) 「オンライン国際セミナー」の開催 (2020年11月)

Zoom等の情報通信手段を利用し、福島浜通り地域の自治体及びハンフォード地域の自治体等を参加者とした「オンライン国際セミナー」を開催する。コーディネーターは、東日本国際大学福島復興創世研究所及び国立パシフィックノースウエスト研究所(PNNL)が行う。また、可能であれば、ハンフォードから関係者を招聘する。

(2) 米国ハンフォード地域現地調査 (2021年1月)

福島復興創世研究所のメンバーが中心となり、第2回目のハンフォード現地調査を実施する。この主な目的は、以下のとおりである。

- ・福島浜通り地域の自治体の首長による米国ハンフォード地域訪問(2021年夏頃、当初2020年7月予定を延長)の調整
- ・福島浜通り地域と米国ハンフォード地域の産業界の連携に向けた調査研究の実施
- ・米国ハンフォード地域の高等教育機関との連携強化

3 「福島浜通り版トライデック」設立に向けた検討 (2020年7月～2021年3月)

ハンフォード地域の地域発展の要因は、トライデックのような地元企業と教育研究機関・地方自治体とを調整する機関の存在が大きい。福島浜通り地域に対する熱意のある関係者や国立パシフィックノースウエスト研究所、ハンフォード地域のトライデック等の協力を得て、この「福島浜通り版トライデック」の機能、活動内容等について検討する組織(タスクフォース)を設置する。このタスクフォースにおいて、会議を開催し鋭意検討を重ねるとともに、広く一般から意見を聴取するためのセミナー等をZoom等を活用しながらオンラインで数回開催する。さらに、この組織で、今後整備が進められる「福島浜通り地域の国際教育研究拠点」の活動内容に対する要望等を取りまとめる。

4 「昌平饗キャラバン」の実施(2020年7月～2021年3月)

本キャラバンは、2020年1月25日に締結した、「福島県浜通り地域の復興と発展に向けた連携協力協定」を踏まえ、いわき市、双葉郡8町村(広野町、楢葉町、川内村、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村)並びに福島県を、それぞれ個別に訪問し、福島復興創世研究所の米国ハンフォードに関するこれまでの取り組み、東日本国際大学及びいわき短期大学の地域貢献に関するこれまでの取り組みを説明するとともに、9市町村及び福島県がそれぞれ抱える復興創生に向けた課題、高等教育機関に対する要望等について意見交換することを趣旨としている。本キャラバンを順次実施していく。